令和５年５月15日

(学)九州電気専門学校
校長　岡田龍雄　殿

学校関係者評価委員会
委員長　山本久信

学校関係者評価委員会報告

令和４年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
① 山本久信（(学)福岡ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校　広報部長）
② 大岩根誠（九州電力送配電㈱送変電本部　工務部長）
③ 末松義浩（㈱九電工　人事労務部長）
④ 八尋　茂（福岡電材㈱　代表取締役）

2　学校関係者評価委員会の開催
・令和５年４月５日（水）（会場　九州電気専門学校　会議室）

3　学校関係者評価委員会報告
（別紙のとおり）

以　上

学校関係者評価結果

学校関係者評価委員会において、令和４年度自己評価報告書に関し、すべての項目において確認を行った。評価委員会の主な意見は以下のとおりである。

（１） 教育理念・目標

・学校経営の基本であり、評価は特に問題ないと判断している。
特に業界のニーズについては、企業を委員とした「教育課程編成委員会」を設置しカリキュラムの構成について意見をもらい企業のニーズを取り入れる仕組みを構築した。

（２） 学校運営

・情報公開の充実を考慮し、保護者向けに「KEC だより」として情報発信してきたが、今回、保護者からのアンケートで好評であったことから評価を「適切」とした。

（３）教育活動

・「教育課程編成委員会」は企業との連携を強化するとともに、「職業実践専門課程」の認定要件となっていることから、今後申請を検討中。
・教員の研修については、社外研修だけでなく、企業からの指導も検討中。
・常勤及び非常勤講師の学生への指導内容共有化のため、「学習指導要領」を作成中。

（４） 学修成果

・個々の学力を都度判断しながら学力に応じた教育を行い、結果として国家資格取得につながる仕組みを構築するとともに、資格取得の目標値を再度見直し、明確化を図った。
・卒業後のフォローについては、卒業生の成績証明書申請に合わせどのような資格に関するものか等について分析した結果、施工管理技士が最も多かったことから、カリキュラムの一部に関連する項目を追加した。
また、卒業後 10 年程度を目安にアンケートを行うことを検討中。

・国家資格取得の目標値を昨年より下げたのはどのような理由か？
・実態を踏まえ、達成可能で、より現実的な数値に見直した。

・他校へのベンチマークとはどうやって調べたのか？
・電気に関する類似コースを保有している学校を訪問し、詳細を調査した。その結果を踏まえ、電験３種ではまず「理論」を理解させるという観点でカリキュラムを検討。

（５） 学生支援

・電気工事士科は１年コースのため、就職活動期間も半年であり対応が難しい。
そのため、可能な範囲で早めに取組みを始め、ｶﾘｷｭﾗﾑの一部に組込むことも検討している。

・健康管理は、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰを設置し、学生や教職員への研修・相談にも対応。

（６） 教育環境

・40 年以上経過した建物の老朽化対策とともに、エアコンや PC の更新などコロナ禍での影響も優先事項となっている。

・防災体制は、避難経路や初期対応について、オリエンテーション等で周知している。

（７） 学生の受け入れ募集

・高校訪問や各種ガイダンス、ホームページ等で情報提供は適切にできていると判断。

・入学者増を図るには電気工学科（昼間部）の入学者確保が重要であり、いろいろと取組んできたが、例年半分は入学する併願希望の生徒が、今回はゼロであった。

・併願希望者の入学がゼロとなったのは、学生数も減り、大学も入学者確保が厳しい状況であることから、不合格者を出さなくなった結果と思われる。

・まずは、資格取得率や就職率などの実績を出し、学校の良さをアピールするしかない。

・企業での採用状況はどうか？

・大学生の確保が厳しい状況。コロナ禍で環境が変わりＷＥＢでの面接などもあり、関東系の企業へ就職している人も多いのではないかと思っている。

（８）財務

・中長期的な財務基盤には不安があるが、学校の特徴・良さを理解してもらい入学者を増やすしかないと考えている。

（９）法令等の遵守

・個人情報の保護の項目では、願書受付時に気になる点を出身高校に問合わせた際、“入学判断に際し差別するような質問は問題がある”旨指摘を受け、我々の認識不足があったと反省している。特に、メンタル面等での質問については判断が難しいと感じている。

（10）社会貢献・地域貢献

・限られた就学期間を考慮しカリキュラムを進める必要がある中、コロナ禍で学級閉鎖などもあり、ボランティアなどの時間を確保するのは難しい状況にある。ただ、机上でのボランティアの意識付けなどは最低実施する必要があると考えている。

（11）国際交流

・昨今はコロナ禍で留学が制限されたが、最近感染対策緩和により、問合わせも来ている。ただ、言葉が伝わらないと十分な理解につながらないことから、日本語検定N2以上などを明確化した外国人向けの募集要項をまとめた。

（その他意見交換）

・夜間の学生は昼間の学生に比べ資格取得率が高いと聞いているが、夜間の意識の高さを昼間に反映できるような仕組みはないのか？

・夜間は既卒者が多く、目標が明確な学生が多い。
学生の自治会である校友会があるが、昼間の学生と夜間の学生との交流の場としても活動を活性化する必要があると考えている。
また、昼間の学生には卒業生からの先輩講話等を行っており意識付けもできると思う。
交友会の場だけではなく、学生の活性化の機会をもっと充実させる必要がある。
例えば、夏休みに企業を訪問し現場の実態を理解させるなど、自ら考え行動できる機会を提供していくことが必要と考えている。

・夜間の学生の募集については、特に社会人の夜学は企業の支援が必要なので、企業へのアクションも必要ではないか？

・学校として広く門戸を開くという意味では夜間部も必要と考えるが、入学者が少ないことについては経営的課題もあり、いろいろな意見を踏まえながら今後検討が必要。

○委員長総評

・学校は、広報と教育と就職である。
まず、就職支援においては、電気工事士科が就職率100％を継続しているのは素晴らしいことであり、また、教育も資格取得に向けて努力されている。

・課題の生徒募集は、資格取得及び就職の実績を持って地道に広報するしかないと思う。
なお、現状の電気業界のニーズは何か、そのニーズに必要な学生は当校だけでなく他のどのようなところで電気を学んでおり、その実態はどうかなど調査し分析してみることも必要ではないか。
全体的によく努力していると思われ、取組みの評価は「適切」でいいと思う。

以　上

学校関係者評価委員評価表（令和４年度学校関係者評価委員会）

評　価　項　目	適切･･･4、　ほぼ適切･･･3 やや不適切･･･2、不適切･･･1	平　均　点　（昨年）
(1)教育理念・目標	4　3　2　1	4.0　(4.0)
(2)学校運営	4　3　2　1	4.0　(3.5)
(3)教育活動	4　3　2　1	4.0　(3.5)
(4)学修効果	4　3　2　1	3.8 (3.5)
(5)学生支援	4　3　2　1	3.8 (3.3)
(6)教育環境	4　3　2　1	3.3　(3.3)
(7)学生の受入れ募集	4　3　2　1	3.0 (4.0)
(8)財務	4　3　2　1	3.5　(3.3)
(9)法令等遵守	4　3　2　1	3.5　(4.0)
(10)社会貢献・地域貢献	4　3　2　1	3.0　(3.5)
(11)国際交流	4　3　2　1	3.0　(3.0)
総　　合	4　3　2　1	・(1)～(11)の平均 3.5(3.5) ・総合の平均　3.8(3.5)

（全体に対するコメント）

〇全体的に各評価において概ね良好と考える。
　入口（入学)、中身（学習)、出口（就職）で評価すると、教育内容は充実してきており、デジタル社会対応、企業講師による実習や理解度に応じたクラス編成など評価できる。
・内定率は95%を超え十分な成果を上げている。
・資格取得の実績を踏まえながら地道に広報活動を行うことが、学生募集につながるのではないか。
・夜間部の入学者減については、夜間部を必要とする学生のニーズと経営的な問題があり、今後も検討が必要。学校のニーズ、少子化、大学との併願等様々な問題があるが克服していかねばならない課題。

〇国家資格取得推進に継続的に努めてほしい。

〇課題を的確に把握し、現在対応できうる対策を講じている。
・学生の募集と設備投資が今後の課題です。改善の検討をお願いします。

〇教育理念に沿ったしっかりした目標が挙げられている。
・国家資格取得の推進、就職率の高水準維持や企業と連携した「教育課程編成委員会」等評価される。
・資格取得率においては、昼間部と夜間部のバランスを取る必要がある。
・卒業後の情報収集と分析を進めていただきたい
・学生支援は、学校の価値を上げるうえで非常に重要。更なる拡充が必要。
・学生募集は、学校維持継続に最も重要な問題であることから、さらなる努力を期待する。